

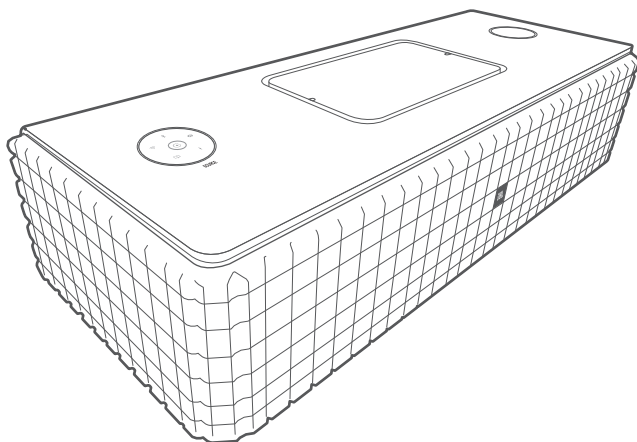
# Authentic L16

# Authentic L8

アクティブスピーカーシステム

---

取扱説明書




## 安全上のご注意


- 使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

**⚠ 警告** この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。


**⚠ 注意** この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

 禁止（してはいけないこと）を示す記号です。

 分解してはいけないことを示す記号です。


 濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。


 水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。

**!** 指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。


## ⚠ 警告


**!** 電源コードは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。  
万一の場合、AC アダプタを容易に引き抜くためです。

 付属品以外の電源コードは使用しない。  
火災の原因になることがあります。


 付属品の電源コードを他の機器に転用しない。  
火災の原因になることがあります。


 船舶などの直流（DC）電源には接続しない。  
火災の原因になります。


 電源コードを束ねた状態で本機を使用しない。  
火災・感電の原因になります。


 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。  
電源コードが破損して火災・感電の原因になります。


**!** 電源コードが破損した場合（芯線の露出や断線など）には、販売店または弊社東京サービスセンターに交換（有償）を依頼する。  
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。


 タコ足配線しない。  
発熱により火災・感電の原因になります。

 テーブルタップ（延長コード）を使用しない。  
発熱により火災・感電の原因になります。


 雷が鳴りはじめたら、電源アダプタには触れない。  
感電の原因になります。


 電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを本機の下敷きしない。  
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。


 煙が出る場合、異常なおいや音がする場合は、すぐに電源コードをコンセントから抜く。  
煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社東京サービスセンターに修理を依頼してください。


 水道の蛇口付近や風呂場などの濡れている場所や水気の多い場所では使用しない。  
火災・感電の原因になります。


**!** 本機の内部に水などが入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社東京サービスセンターに点検を依頼する。  
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

 本機の内部に異物を入れない。  
万一、本機の内部に異物が入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社東京サービスセンターに点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

 アルコール・シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しない。  
引火性溶剤が本機内部の電源部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。









 分解や改造をしない。  
感電の原因になります。

 調理台や加湿器の近くなど油煙や湯気があたる場所に設置しない。  
火災・感電の原因になることがあります。

 直射日光があたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）に設置しない。  
キャビネットや内部回路に悪影響が生じ、火災の原因になることがあります。

**!** オーディオ機器を接続するときは、それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のケーブルを使用して接続する。  
指定以外のケーブルを使用すると発熱し、やけどの原因になることがあります。

### ⚠ 注意

-  濡れた手でコンセントを抜き差ししない。  
感電の原因になります。
-  長期間本機を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。  
火災・感電の原因になります。
-  電源プラグを抜くときは、電源コードを引っばらない。  
電源コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。
-  電源プラグは、コンセントの根元まで確実に差し込む。  
電源プラグを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。
-  ほこりや湿気の多い場所に設置しない。  
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となります。
-  不安定な場所や振動する場所に設置しない。  
本機が落下や転倒して、けがの原因となります。
-  移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。  
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。
-  薬物厳禁  
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

## Bluetooth® に関するご注意

本機は、2.4GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、一般家庭でもいろいろな機器（電子レンジやコードレス電話など）で使用されています。以下のような場所で本機を使用する場合、送信/受信ができなくなることがあります。

- ・2.4GHzを利用する無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります。）
- ・ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります。）
- ・テレビにノイズが出た場合、本機（および本機対応製品）がテレビ、ビデオ、BSチューナー、CSチューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本機（および本機対応製品）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

### ▲ 注意

- ・本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ・本機は、全てのBluetooth機器との接続動作を保証するものではありません。
- ・弊社ではお客様の接続機器に関する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

### 安全にお使いいただくために

- ・高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- ・航空機内や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関などの指示に従ってください。

### ご注意ください電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。

ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

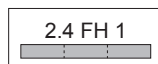
### 電波法に基づく認証について

本機は電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の行為を行うと法律により罰せられることがあります。

- ・本機を分解/改造すること。
- ・本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

### 周波数について

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFHSS（周波数拡散方式）を採用し、想定される干渉距離は約10mです。



この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社東京サービスセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談して下さい。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社東京サービスセンターへお問い合わせ下さい。

## 電波について

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。日本国内のみで使用してください。各国の電波法に抵触する可能性があります。また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。

- ・ 分解 / 改造すること
- ・ 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

- 本機は電波を使用しているため、第三者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。

- 次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、音が途切れて通常のご使用ができないことがあります。

- ・ 2.4GHz用周波数帯域を利用する、電子レンジ、デジタルコードレス電話、Bluetoothなどの機器の近く。  
電波が干渉して音が途切れることがあります。
- ・ ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CSチューナーなどのアンテナ入力端子を持つAV機器の近く。  
音声や映像にノイズがのることがあります。

## 目次

安全上のご注意.....	2
Bluetooth® に関するご注意.....	4
電波について.....	4
本機の特長.....	6
付属品.....	7
各部の名称.....	8
基本操作.....	10
電源を接続する.....	10
電源をオン / オフする.....	10
音量を調節する.....	10
ソースを切り換える.....	10
iPhone/iPod/iPad やスマートホンなどを充電する.....	11
Bluetooth 接続を行う.....	12
ペアリングを行う.....	12
ペアリングを解除する.....	13
Wi-Fi 接続を行う.....	14
再生する.....	17
Bluetooth 再生を行う.....	17
レコードプレーヤーの再生を行う (Authentic L16 のみ).....	17
デジタル機器の再生を行う.....	19
オーディオ機器の再生を行う.....	20
AirPlay/DLNA を使用して再生する.....	21
AirPlay 再生を行う.....	21
パソコン (サーバー) から再生する.....	21
JBL Music アプリを使う.....	23
アプリ (JBL Music) をインストールする.....	23
JBL Music の表示画面と各種設定.....	23
JBL Music で曲を再生する.....	24
再生リストから曲を削除する.....	26
音質を調整する.....	26
Clari-Fi を調整する.....	27
その他.....	28
設定ページへアクセスする.....	28
スピーカーグリルを取りはずす.....	28
インジケータの点灯パターン.....	29
トラブルシューティング.....	30
お手入れ.....	30
主な仕様.....	31
HARMAN Owners' Club.....	32
アフターサポート.....	32

### 本機の特長

#### ◆ 300W の出力を備えた本格派オーディオシステム (Authentic L16)

本格 3 ウェイスピーカーシステムを採用し、300W のハイパワーでドライブ。

さらに、本体底面にはバスレフポートを装備し、低音をより豊かに表現。

明瞭でパワフルな JBL サウンドを体感できます。

#### ◆ 多彩な入力形態を備えたアクティブスピーカー

Bluetooth、NFC、AirPlay、DLNA、光デジタル、アナログ入力と多彩な入力が可能です。

Authentic L16 は、レコードプレイヤーとの接続も可能で、MM 型 / MC 型カートリッジ対応のフォノイコライザーを搭載。

#### ◆ 独自の音楽補正技術 (クラリファイ) 搭載

様々な圧縮フォーマットの様々なビットレートに最適な形に対応し、必要な部分に必要なだけの補完をリアルタイムで自動的に行う技術を搭載。ビットレートが低くなればなるほど、クラリファイは介入の度合いを深めデータを補完します。逆に CD クオリティの音楽データを認識した場合、クラリファイは介入をせずそのまま音楽データをスルーさせます。

#### ◆ アコースティックなデザインは、インテリアとしても存在感抜群

Authentic L16 は、ぬくもりを感じるウォールナットを使用し、落ち着きのあるデザインに仕上げています。Authentic L8 は、色に厚みがあるブラックで、ピアノの天板のような質感で美しい光沢が特長。

JBL ラウドスピーカー L100 センチュリー (71 年発売) をモチーフとした独特なウレタンフォームのグリルや、AC 電源などのジャックを本体底面に配置することで、接続部が目立たないデザインです。インテリアとしても存在感があるデザインです。

Authentic L16 は、欧州で権威のある「EISA アワード 2014-2015」(European Imaging and Sound Association) でヨーロッパコンパクト HI-FI システム 2014-2015 を受賞しました。

#### ◆ JBL Music アプリ対応 (無料・英語版)

JBL Music アプリをスマートホンなどのデバイスにダウンロードすることで、ボリュームやトーンのコントロールなどの操作が可能になります。かつ、Wi-Fi のシェアリングもアプリ上で簡単に行えます。

### < オプション品 >

#### ◆ 交換用グリル

Authentic シリーズは、グリルの取り外しが可能。

標準装備しているブラックのほかに、Authentic L16 は、ブルーとレッドの 2 色、Authentic L8 はベージュ、パープル、レッドの 3 色のグリルをオプション品にて販売いたします。

部屋のインテリアにあわせてお選びいただけます。(※受注生産となります)

#### ◆ Authentic 専用スタンド

Authentic シリーズを設置するための専用スピーカースタンドも同時に発売いたします。(※受注生産となります)

この取扱説明書では、Authentic L16 の図を使用して説明しています。

## 付属品

お使いになる前に、以下の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

電源ケーブル



日本語取扱説明書（本紙）

多言語取扱説明書

保証書（日本国内用）

### スピーカーグリルについて

本機のスピーカーグリルは取りはずすことができます。

ハーマンインターナショナルでは、さまざまな色のスピーカーグリルをオプションで取り揃えています。詳しくは、ハーマンインターナショナルのウェブサイトをご参照してください。

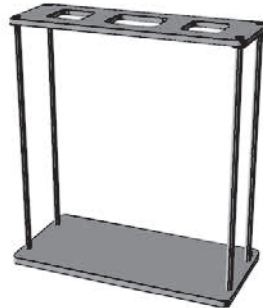
<http://jbl.harman-japan.co.jp/>

スピーカーグリルの取りはずし方法については、28 ページをご参照してください。

### 設置スタンド（別売り）について

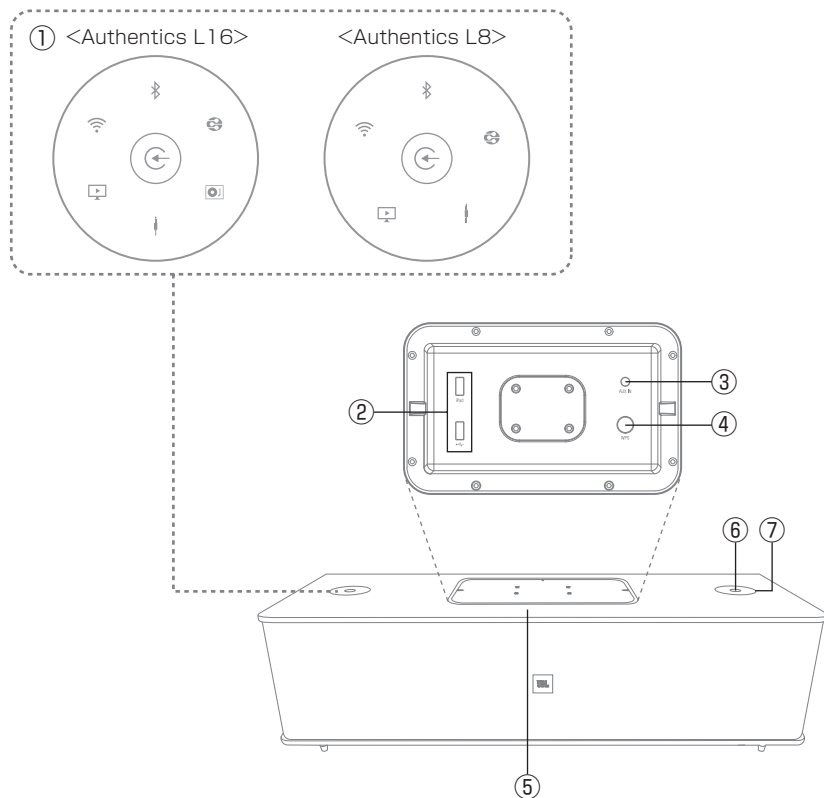
最適なリスニング環境を提供するため、ケーブル管理用のクリップを備えた専用の設置スタンドをご用意しています。詳しくは、ハーマンインターナショナルのウェブサイトをご参照してください。（※受注生産となります）

<http://jbl.harman-japan.co.jp/>



## 各部の名称

### 本体前面



- ① ソース (G) ボタン / ソースインジケータ
- ② USB ポート (電力供給用)
- ③ AUX IN 端子
- ④ WPS ボタン
- ⑤ NFC タッチポイント
- ⑥ 電源 (I) ボタン
- ⑦ 音量ダイヤル

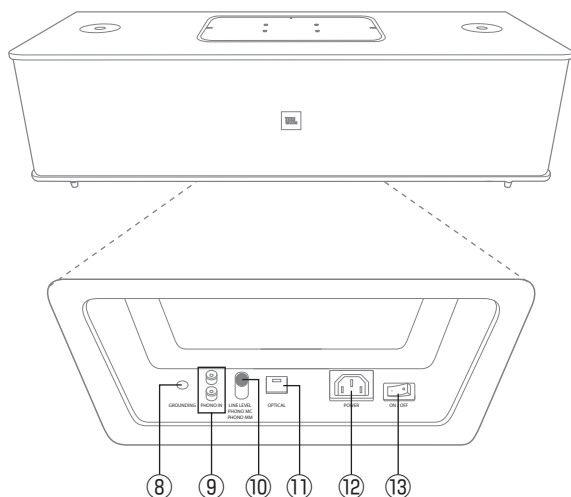


# Authentic L16/Authentic L8

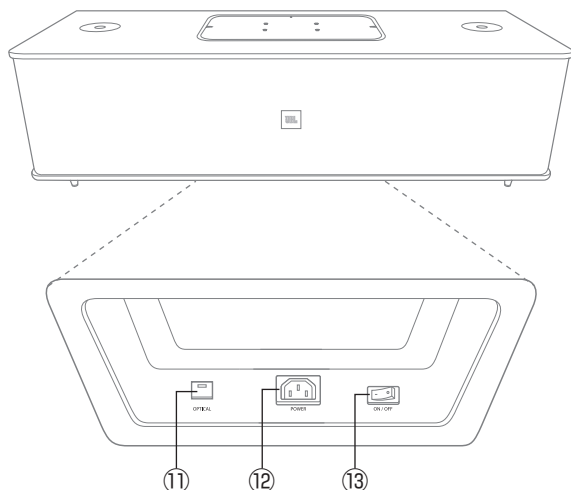
各部の名称

## 本体底面

<Authentic L16>



<Authentic L8>



- ⑧ GROUNDING 端子 (Authentic L16 のみ)
- ⑨ PHONO IN 端子 (Authentic L16 のみ)
- ⑩ 入力レベル切り換えスイッチ (Authentic L16 のみ)

- ⑪ OPTICAL 端子
- ⑫ POWER 端子
- ⑬ 主電源スイッチ

## 基本操作

### ▶ 電源を接続する

- ① 付属の電源ケーブルを本機の POWER 端子接続します。
- ② 電源ケーブルをコンセントに接続します。

本機は国内外の電圧に対応しています。海外でご使用の際は、お使いになる国のコンセントに合った変換プラグが必要になります。

### ▶ 電源をオン / オフする

- ① 本機底面の主電源スイッチを ON にします。
- ② 本機上面の電源 (⏻) ボタンを押して電源をオンにします。

電源がオンのときに電源ボタンを押すとスタンバイモードになります。



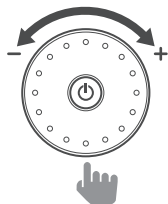
長期間お使いにならないときは、主電源スイッチを OFF にしてください。

### ▶ 音量を調節する

音量ダイヤルを回します。

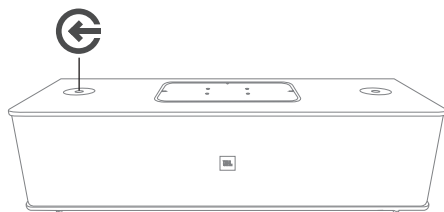
右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

- ・ワイヤレス接続中は、接続しているデバイス上で音量を調節することができます（一部のデバイスのみ対応）。



### ▶ ソースを切り換える

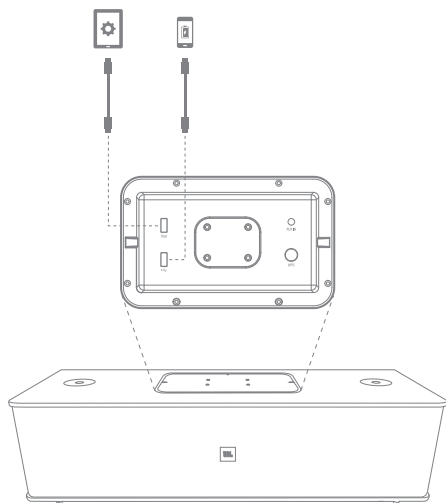
ソース (⊕) ボタンを繰り返し押すと、ソースを選択することができます。



ボタンを押すごとに、以下の順でソースが切り換わります。



## ▶ iPhone/iPod/iPad やスマートフォンなどを充電する



USB ケーブルを使って、本機上面の USB 端子と iPhone/iPod/iPad やスマートフォンを接続し、充電することができます。

## Bluetooth 接続を行う

- Bluetooth 機能を使ってワイヤレス再生を行うには、はじめに本機と Bluetooth 対応デバイスを認識させる「ペアリング」が必要となります。
- 本機とデバイスを一度ペアリングすれば、その後に再度ペアリングを行う必要はありません。
- 本機は NFC を利用したペアリングに対応しています。お手持ちの携帯電話・スマートホンが Bluetooth の NFC 規格に対応している場合、デバイスを本機にタッチするだけで、ペアリングを行うことができます。

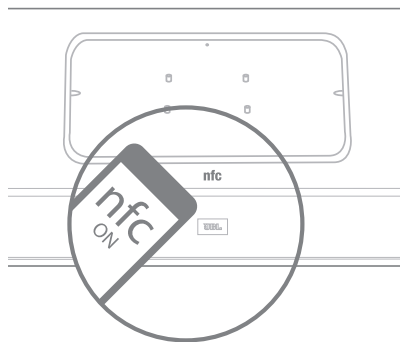
### ▶ ペアリングを行う

以下の手順は一例です。詳細については、接続するデバイスの取扱説明書も合わせてご覧ください。

- ① 電源 (⏻) ボタンを押して、本機の電源を入れます。
- ② ソース (⊕) ボタンを 3 秒以上押し続けて、ペアリングモードにします。  
Bluetooth マークが点滅し、ペアリング設定状態になります。
- ③ 以降の説明を参照し、デバイス側でペアリング操作を行い、登録 / 接続します。

### NFC 対応スマートホンの場合：

- ① GALAXY や Xperia™ をお使いの場合、「設定」→「NFC/おサイフケータイ設定」→「Reader/Writer, P2P」を「ON」にします。
- ② 携帯電話・スマートホンを、本機上面のタッチポイントにタッチします。  
携帯電話・スマートホンの NFC マーク (📲) を、本機のタッチポイントに向けてタッチしてください。



初めて接続した場合、ペアリングするかどうかの確認メッセージが表示されます。この場合は「はい」をタップすると接続が完了します。

- 認識されにくい場合は、デバイスをタッチする角度を調整してください。
- GALAXY、Xperia™ 以外のスマートホンをお使いの場合の設定方法は、お使いの機種取扱説明書をご覧ください。
- Xperia は Sony Mobile Communication AB の登録商標です。GALAXY は米国およびその国で登録されている Samsung Electronics Co., Ltd. の商標または登録商標です。
- 「📲」は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。

### iPhone/iPod/iPad の場合：

- ① iPhone/iPod/iPad をペアリングモードにします。  
「設定」→「Bluetooth」の順にタップした後、「Bluetooth」を「オフ」から「オン」にします。  
Bluetooth に接続できるデバイスの一覧が表示されます。
- ② デバイスから「JBL L16 BT/JBL L8 BT」を選択します。  
接続が完了すると、デバイス上で「接続されました」と表示されます。

### その他のデバイス（携帯電話・スマートホンなど）の場合：

- ① ペアリングモードにします。  
接続するデバイス側で、本機を検出可能な状態にします。お使いのデバイスの取扱説明書も合わせてご覧ください。  
(パスキーが必要な場合は「0000」と入力します。)  
一部のデバイスでは、接続を確認するメッセージが表示されます。  
Bluetooth (📶) マークが点灯すると、ペアリングは完了です。

本機は一度ペアリングを行ったデバイスの情報を記憶していますので、ペアリングを行ったあとは、本機の電源を入れ、接続したいデバイスの Bluetooth をオンにするだけで Bluetooth 接続することができます。

### ▶ ペアリングを解除する

Bluetooth 接続中に、ソース (🎧) ボタンを押し続けます。

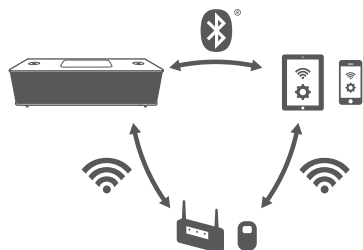
## Wi-Fi 接続を行う

本機では、以下の 5 種類の Wi-Fi 接続方法があります。

お使いのデバイスに合わせて設定してください。

- ① iOS ワイヤレス Wi-Fi シェアリング：iPhone/iPod/iPad を Bluetooth 経由で接続します。
- ② iOS Wi-Fi シェアリング：iPhone/iPod/iPad を USB ケーブル経由で接続します。
- ③ マニュアル接続：パソコンやその他のデバイスから接続します。
- ④ WPS 接続：お使いの無線 LAN ルーターが WPS 接続に対応している場合、本機の WPS ボタンを使って設定します。
- ⑤ アプリを使用して接続：JBL Music アプリを使用して設定します。

### ① iOS ワイヤレス Wi-Fi シェアリング



- 本機⇔ iPhone/iPod/iPad は Bluetooth 接続
- 本機⇔アクセスポイントおよび iPhone/iPod/iPad ⇔アクセスポイントは無線 LAN 接続

- ① iPhone/iPod/iPad を無線 LAN のアクセスポイントと接続します。
- ② 本機と iPhone/iPod/iPad を Bluetooth 接続します。
- ③ ソース (🎵) ボタンを繰り返し押し、ソースを AirPlay (📶) にします。
- ④ ソース (🎵) ボタンを 3 秒以上押し続けます。  
iPhone/iPod/iPad の画面上に「Wi-Fi 設定を共有しますか?」とポップアップ表示されます。

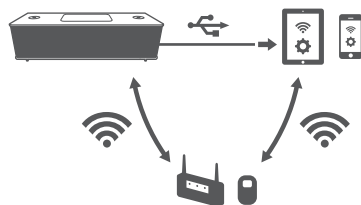
- ⑤ 「許可」をタップします。

本機と iPhone/iPod/iPad の Wi-Fi 設定が共有され、無線 LAN のアクセスポイントに接続されます。

接続が完了するまで 30 秒～40 秒程度かかります。

本機が無線 LAN に接続されると、Wi-Fi (📶) マークが点灯します。

### ② iOS Wi-Fi シェアリング



- 本機⇔ iPhone/iPod/iPad は USB 接続
- 本機⇔アクセスポイントおよび iPhone/iPod/iPad ⇔アクセスポイントは無線 LAN 接続

- ① iPhone/iPod/iPad を無線 LAN のアクセスポイントと接続します。
- ② 本機と iPhone/iPod/iPad を USB ケーブルを使用して接続します。  
本機に USB ケーブルは付属していませんので、デバイスに付属のケーブルをお使いください。
- ③ ソース (🎵) ボタンを繰り返し押し、ソースを AirPlay (📶) にします。
- ④ ソース (🎵) ボタンを 3 秒以上押し続けます。  
iPhone/iPod/iPad の画面上に「Wi-Fi 設定を共有しますか?」とポップアップ表示されます。
- ⑤ 「許可」をタップします。  
本機と iPhone/iPod/iPad の Wi-Fi 設定が共有され、無線 LAN のアクセスポイントに接続されます。  
接続が完了するまで 30 秒～40 秒程度かかります。  
本機が無線 LAN に接続されると、Wi-Fi (📶) マークが点灯します。

### ③ マニュアル接続

パソコンやタブレットをお使いの場合、以下の方法で接続します。

接続を行う前に、本機の USB 端子にデバイスが接続されていないことを確認してください。

- ① 本機の電源 (⏻) ボタンを押して電源を入れ、1 分間待ちます。
- ② ソース (Ⓢ) ボタンを繰り返し押し、ソースを DLNA (Ⓛ) にします。
- ③ ソース (Ⓢ) ボタンを 3 秒以上押し続けます。  
DLNA (Ⓛ) マークが 2 回点滅します。



- ④ お使いのパソコンやタブレットで Wi-Fi 接続設定画面を開きます。
- ⑤ 接続可能機器の一覧から「JBL\_L16\_WF\*\*\*\*\*/JBL\_L8\_WF\*\*\*\*\*」を選択します。  
接続が完了するまで、30 秒～40 秒かかります。
- ⑥ パソコン / タブレットのウェブブラウザを開き、ブラウザのアドレスバーに IP アドレス (192.168.1.1) を入力します。  
画面上に設定画面が表示されます。
- ⑦ 「Name Your Product (機種名)」欄に製品名 (お好きな名前) を入力し、「Apply (適用)」をクリックします。
- ⑧ 「Choose Your Network (ネットワークの選択)」ドロップダウンメニューから、接続したい Wi-Fi ネットワークの名前を選択します。
- ⑨ ネットワークのパスワードを入力し、「保存」をクリックします。  
ネットワーク接続が確立されます。  
• お使いのアクセスポイントに応じて、1 分ほど時間がかかる場合があります。

### ④ WPS 接続

本機は WPS-PBC および WPS-PIN 接続に対応しています。

お使いの無線 LAN ルーターが WPS 接続に対応している場合、本機の WPS ボタンを使って設定します。

WPS-PBC 接続の場合：

- ① お使いの Wi-Fi ルーターの WPS ボタンを押します。
- ② 1 分以内に、本機の WPS ボタンを押します。

WPS-PIN 接続の場合：

- ① 「マニュアル接続」の手順①～⑨を行い、本機とデバイスをワイヤレス接続します。
- ② 本機の WPS ボタンを 3 秒以上押し続けます。
- ③ パソコン / タブレットのウェブブラウザで設定画面を表示し、画面上部にある「WPS-PIN コード」を確認します。
- ④ パソコン / タブレットでルーターの設定ページを開きます。  
設定ページの開き方については、お使いの Wi-Fi ルーターの取扱説明書をご覧ください。
- ⑤ 手順③で確認した「WPS-PIN コード」を入力します。

### ⑤ JBL Music アプリ（無料／英語版）を使用して接続する

お使いのデバイスに JBL Music アプリがインストールされている場合、アプリを使用して接続することができます。

JBL Music は iOS および Android デバイスに対応しています。

App ストアおよび Play ストアから、「JBL Music」で検索してダウンロード／インストールしてください。

・インストール方法については、23 ページを参照してください。

- ① デバイス上で JBL Music アイコンをタップして、アプリを起動します。
- ② ホーム画面上の「+」アイコンをタップします。
- ③ 「AUTHENTICS」をタップします。
- ④ 「Setup Wi-Fi」をタップします。
- ⑤ アプリ上の指示にしたがい設定を行ってください。

### ご注意

- ・本機はすべての無線 LAN ルーター / アクセスポイントとの接続動作を確認したものではありません。したがって、すべての無線 LAN ルーター / アクセスポイントとの接続は保証できません。
- ・医療機器の近くや無線通信機器の使用が禁止されている場所では、無線 LAN 接続しないでください。
- ・無線 LAN ルーター / アクセスポイントの仕様や接続方法などの詳細は、無線 LAN ルーター / アクセスポイントの取扱説明書をご確認ください。
- ・お使いの無線 LAN ルーター / アクセスポイントによっては、WPS に対応していても、WPS 機能を使用しない設定になっている場合があります。無線 LAN ルーター / アクセスポイントの WPS に関する設定方法については、無線 LAN ルーター / アクセスポイントの取扱説明書をご確認ください。
- ・無線 LAN ルーター / アクセスポイントと本機が離れすぎていると、接続ができない場合があります。両機器が離れすぎないようにご注意ください。
- ・無線 LAN は周囲の電波の影響を受けます。電子レンジなどの近くでは電波状態が悪い場合がありますので、ご注意ください。
- ・無線通信時のデータおよび情報の漏洩につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。




## 再生する

## ▶ Bluetooth 再生を行う

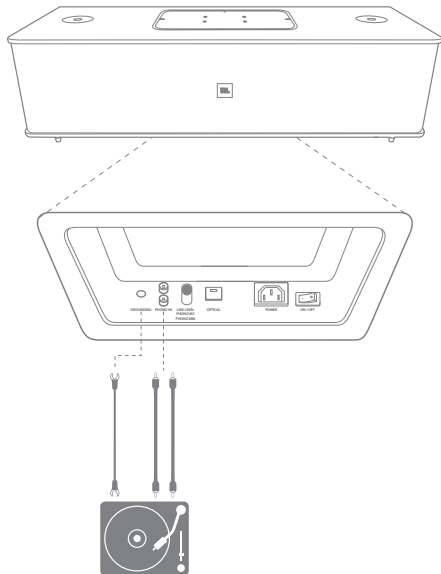
Bluetooth 再生を行うには、ペアリングを行ったあと本機を再生機器として設定します(12 ページ参照)。

## iPhone/iPod/iPad で設定する

- ① iPhone/iPod/iPad 画面を下から上へスワイプする。
- ②  アイコンをタップする。
- ③ 「JBL L16 BT/JBL L8 BT」をタップする。

## ▶ レコードプレーヤーの再生を行う (Authentic L16 のみ)

## レコードプレーヤーを接続する



本機はムービングマグネット型 (MM) およびムービングコイル型 (MC) のカートリッジを使用するレコードプレーヤーに対応しています。

レコードプレーヤーのカートリッジ形式に合わせて、入力レベル切り換えスイッチを「MM」、「MC」、「LINE LEVEL」に切り換えてお使いください。

## ご注意

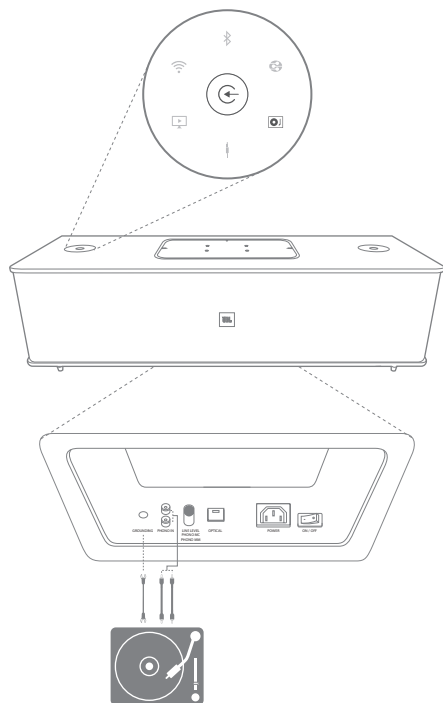
- MM/MC の切り換えは、必ず本機の電源がオフの状態で行ってください。
- カートリッジ形式が異なる入力を検出した場合、本機は自動的に電源がオフになります。

入力レベル切り換えスイッチを切り換えたあと、本機底面の PHONO IN 端子とレコードプレーヤーを接続します。

アース (接地) 線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の GROUNDING 端子に接続してください。

ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなる場合があります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

## レコードプレーヤーの再生を行う

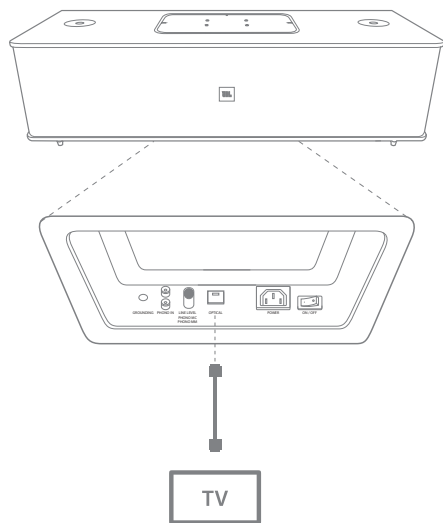


再生の前に、本機底面の入力レベル切り換えスイッチが正しい位置に設定されているかをご確認ください。カートリッジ形式が異なる入力を検出した場合、本機は自動的に電源がオフになります（17 ページ参照）。

- ① ソース (⊕) ボタンを繰り返し押して、ソースを PHONO (Ⓜ) にします。
- ② レコードプレーヤーの再生を始めます。

## ▶ デジタル機器の再生を行う

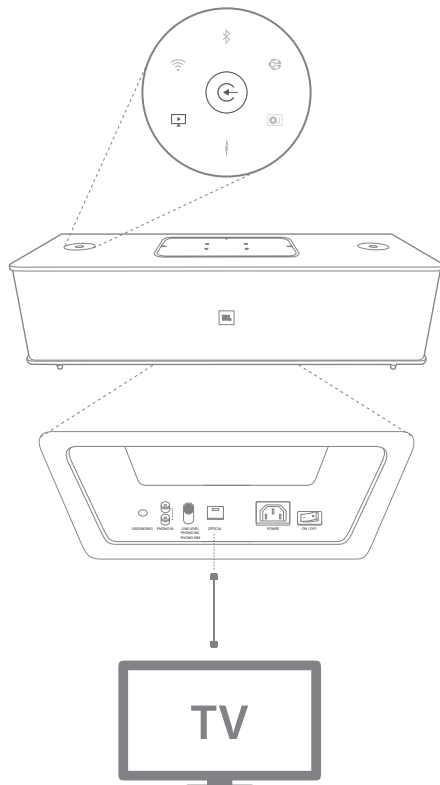
## デジタル機器を接続する



光デジタルケーブルを使って、本機底面の OPTICAL 端子と、光デジタル出力に対応している PC やテレビ、オーディオ機器などと接続します。

• 光デジタルケーブルのプラグには丸型と角型があります。本機の OPTICAL（光デジタル）端子は「角型」になりますので、ケーブルをお買い求めの際ご注意ください。

## デジタル機器の再生を行う



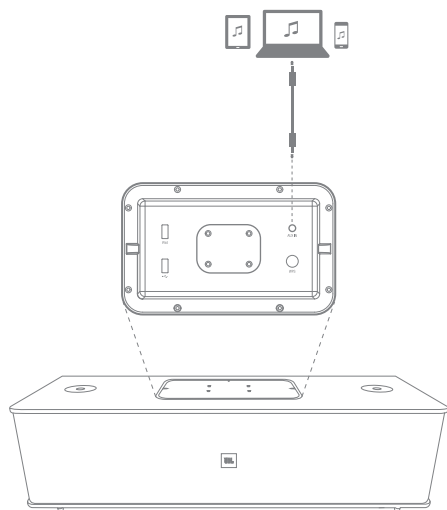
- ① ソース (G) ボタンを繰り返し押して、ソースを OPTICAL (TV) にします。
- ② デジタル機器の再生を始めます。

- 本機は、サンプリングレートが 44.1 kHz または 48 kHz の PCM 音声信号の再生に対応しています。
- 44.1 kHz または 48 kHz の PCM 音声信号を検出した場合、自動的に再生が開始されます。

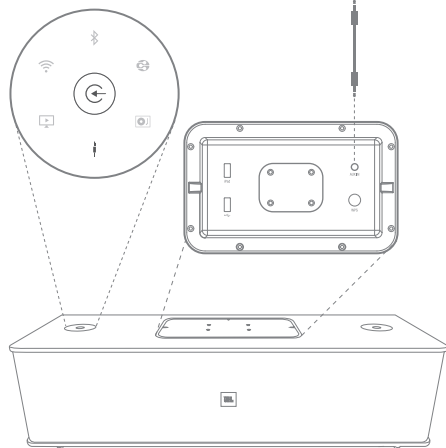
## ▶ オーディオ機器の再生を行う

## オーディオ機器の再生を行う

### オーディオ機器を接続する



3.5mm ステレオミニケーブルを使って、本機上面の AUX IN 端子とオーディオ機器を接続します。



- ① ソース (⏪) ボタンを繰り返し押し、ソースを AUX IN (🔌) にします。
- ② オーディオ機器の再生を始めます。

## AirPlay/DLNA を使用して再生する

### AirPlay について

Apple 社の AirPlay 技術により、Mac/Windows/iPhone/iPod/iPad 内の音楽を、本機でワイヤレス再生できます。

- AirPlay 再生には、iTunes バージョン 10.1 以降 (Mac/Windows パソコン) が必要になります。

### DLNA<sup>※</sup>について

DLNA 技術により、サーバー、ネットワークストレージ (NAS)、パソコンおよびモバイル機器の音楽を、本機でワイヤレス再生できます。

DLNA による再生には以下が必要となります。

- Wi-Fi および DLNA に対応しており、かつネットワーク上に接続されているサーバー、ネットワークストレージ (NAS) プレーヤーあるいはコントローラーとして使用できるデバイス
- Windows Media Player 12 (Windows 7/Windows 8)

Windows Media Player 11 以前の Windows Media Player では再生できません。

※ DLNA とはデジタルリビングネットワークアライアンス (Digital Living Network Alliance) の略で、デジタルコンテンツをネットワークを通じ共有するための企画ガイドラインを策定している非営利団体です。詳しくは、<http://www2.dlna.org/> をご覧ください。

### ▶ AirPlay 再生を行う

#### iTunes で AirPlay を開始する

- ① iTunes ウィンドウの上部にある AirPlay アイコンをクリックします。
- ② 「JBL L16 WF\_XXXXXX/  
JBL L8 WF\_XXXXXX」を選択します。
- ③ 複数の AirPlay 対応機器で同時に再生する場合は、「複数のスピーカー ...」を選択し、再生したい機器を選択します。

### iPhone・iPad・iPod touch で AirPlay を開始する

- ① AirPlay アイコンをタップします。
- ② 「JBL L16 WF\_XXXXXX/  
JBL L8 WF\_XXXXXX」(XXX は任意の文字列) を選択します。

### ▶ パソコン (サーバー) から再生する

パソコン (サーバー) 内の音楽データ (MP3、WAV、AAC など) を再生します。

その他のサーバーの設定については、各機器やソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご確認ください。

- DLNA に対応した機器 (メディアプレーヤーやゲーム機) から再生することができます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご確認ください。

### Windows Media Player 12 で再生する

- ① 本機の電源を入れます。
- ② パソコン (サーバー) を起動します。
- ③ Windows Media Player 12 を起動します。
- ④ 再生したい音楽データを選択し、右クリックします。
- ⑤ 右クリックメニューから [リモート再生] → [JBL L16 WF/JBL L8 WF] をクリックします。

「リモート再生」画面が表示され、再生を開始します。

- 再生できる音楽ファイルは、サーバーに依存します。たとえば、Windows Media Player 12 をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media Player 12 ライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

- 著作権保護されたファイルは、再生できない場合があります。

### **ご注意**

- 無線 LAN に接続した機器と、本体背面の外部入力端子（AUX IN および OPTICAL）に接続した機器では、出力の大きさが異なる場合があります。ソース切換の際の音量にご注意ください。
- メディアサーバーの種類によっては、本機を認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

## JBL Music アプリを使う

お使いのスマートホン、iPhone・iPad・iPodにアプリ(JBL Music)をインストールすることで、曲順や音質をカスタマイズしてお楽しみいただけます。

- JBL Music アプリは英語版となります。
- この取扱説明書で使用している画面は 2014 年 9 月現在のものです。アプリのアップデートにより仕様が変更されることがあります。

### ▶ アプリ (JBL Music) をインストールする

初めてお使いになる場合は、まずアプリをダウンロード/インストールしてください。

- JBL Music は、iPhone・iPod・iPad および Android デバイスに対応しています。

- ① 本機とデバイスをペアリングします。  
初めて接続した場合、デバイスの画面に以下のメッセージが表示されます。

#### App がインストールされていません

このアクセサリを使用するために必要な App がインストールされていません。

App をインストールしますか？

- ② メッセージが表示されたら、「はい」をタップします。

ダウンロード画面が表示されます。

サイトが表示されない場合は、「検索」画面で「JBL Music」と入力し検索してください。

- ③ 「APP をインストール」をタップして、アプリをダウンロード/インストールする。

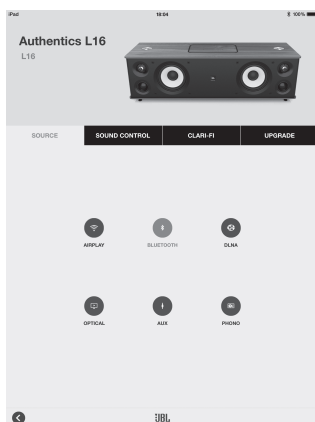
ID、パスワードを入力してアプリのダウンロード/インストールを行ってください。

JBL Music のダウンロードは無料※です。

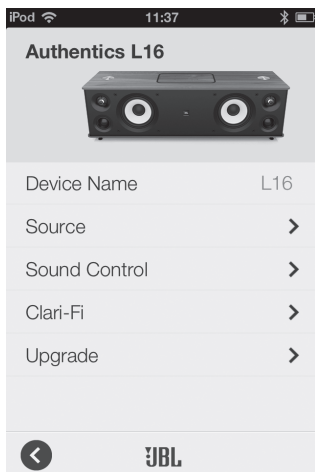
※ ただし、アプリのダウンロードの際の通信料は、お客様の負担となります。

### ▶ JBL Music の表示画面と各種設定

<iPad の場合>



<iPhone/iPod/スマートホンの場合>



# Authentic L16/Authentic L8

JBL Music アプリを使う

**Device Name** : デバイスの名前が表示されます。このエリアをタップすると、名前を変更することができます。

**Source** : ソースを選択します。

**Sound Control** : 音質を調整します。

**Clari-Fi** : Clari-Fi のレベルを調整します。\*

**Upgrade** : JBL Music アプリの更新を行います (更新版がある場合)。

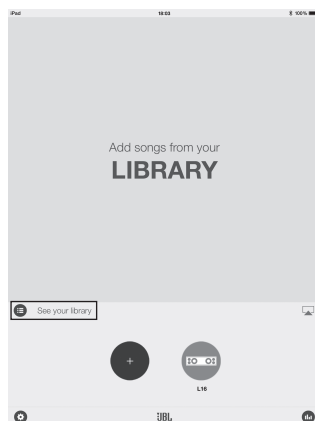
\*Clari-Fi とは、デバイスを Bluetooth 接続して再生する際、圧縮して失った音質を復元させる、ハーマンインターナショナル独自の技術です。

## ▶ JBL Music で曲を再生する

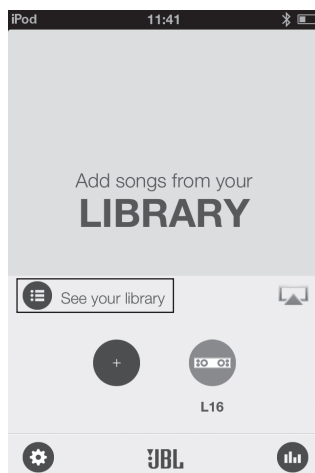
JBL Music で曲を再生するには、ライブラリに曲を追加する必要があります。

①「JBL Music」をタップしてアプリを開きます。

<iPad の場合 >



<iPhone/iPod/ スマートホンの場合 >





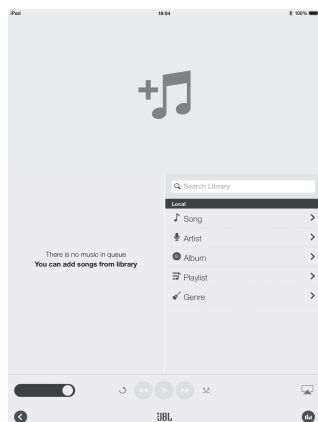
# Authentics L16/Authentics L8

## JBL Music アプリを使う

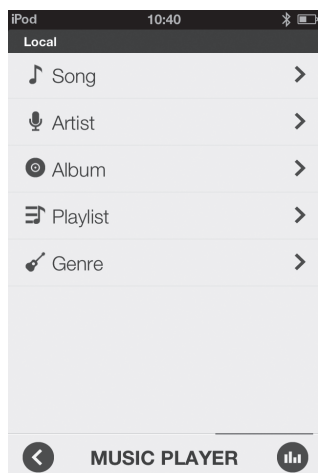
- ② 「See your library」の左にあるアイコンをタップします。

曲の追加画面が表示されます。

### <iPad の場合 >



### <iPhone/iPod/ スマートホンの場合 >



- ③ 再生したい曲をタップして追加します。  
曲名 (Song)、アーティスト名 (Artist)、アルバム名 (Album)、プレイリスト (Playlist)、ジャンル (Genre) や、曲名・アルバム名を検索して、追加したい曲やアルバムを選びます。iPhone/iPod/ スマートホンで検索バーを表示させたいときは、画面を下にスワイプします。

- ④ ▶ をタップします。

iPhone/iPad/ スマートホンの場合、再生が始まります。

### <iPhone/iPod/ スマートホンの場合 >

#### 再生を始めるには

◀ をタップして前の画面に戻ってから ▶ をタップします。

#### 曲の追加画面に戻るには

- ① ジャケット写真をタップします。
- ② 画面を右にスワイプします。

1 回スワイプするとプレイリスト画面、2 回スワイプすると曲の追加画面になります。


#### 追加した曲順をプレイリストとして保存するには

- ① [ ] をタップします。
- ② プレイリストの名前を入力します。
- ③ 「OK」をタップします。

### 各種アイコンの機能

- ▶ : 再生
- || : 一時停止
- ▶▶ : 次の曲にスキップ
- ◀◀ : 前の曲にバックスキップ
- ↺ : 全曲リピート
- ↻ : 1 曲リピート
- ↻ : シャッフル
- ▶ : AirPlay
- ✎ : 編集
- 📁 : プレイリストの保存

### ▶ 再生リストから曲を削除する

- ①  アイコンをタップします。  
iPhone/iPod/ スマートホンの場合は、ジャケット写真をタップし、右に 1 回スワイプするとアイコンが表示されます。
- ② 削除したい曲の左側にある○をタップします。  
もう一度タップすると、選択が解除されます。  
すべての曲を選択したい場合は「Select All」、選択を解除する場合は「Unselected」をタップします。
- ③ 「Remove」をタップします。  
削除するかどうか確認メッセージが表示されます。
- ④ 「OK」をタップします。  
曲が再生リストから削除されます。

### ▶ 音質を調整する

- ① 「Sound Control」をタップします。

<iPad の場合 >



<iPhone/iPod/ スマートホンの場合 >

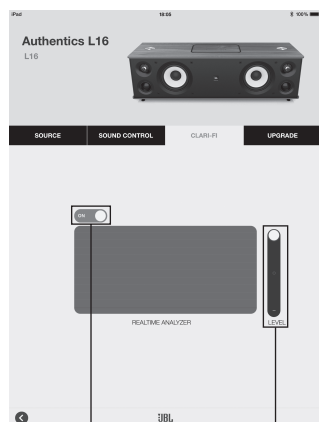


- ② 各音質をスワイプして調整します。  
Volume : 音量を調整します。  
BASS : 低音のレベルを調整します。  
MID : ミッドレンジのレベルを調整します。  
HIGH : 高音のレベルを調整します。  
設定をリセットしたい場合は「Reset」をタップします。

### ▶ Clari-Fi を調整する

① 「Clari-Fi」 をタップします。

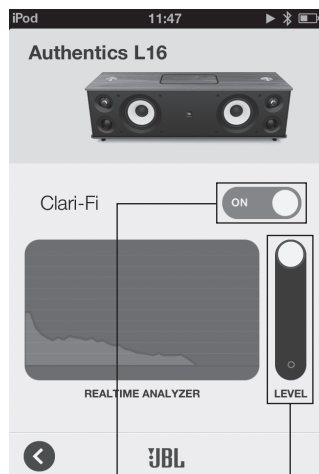
<iPad の場合 >



タップして ON/OFF  
を切り換えます。

スワイプしてレベルを調整します。

<iPhone/iPod/ スマートホンの場合 >



タップして ON/OFF  
を切り換えます。

スワイプしてレベルを調整します。

### Clari-Fi とは？

様々な圧縮フォーマットの様々なビットレートに最適な形に対応し、必要な部分に必要なだけの補完をリアルタイムで自動的に行う技術を搭載。ビットレートが低くなればなるほど、クラリファイは介入の度合いを深めデータを補完します。逆に CD クオリティの音楽データを認識した場合、クラリファイは介入をせずそのまま音楽データをスルーさせます。

詳しくは、ハーマンインターナショナルのウェブサイトを参照してください。

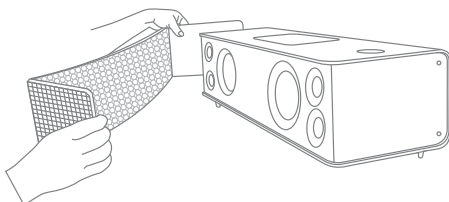
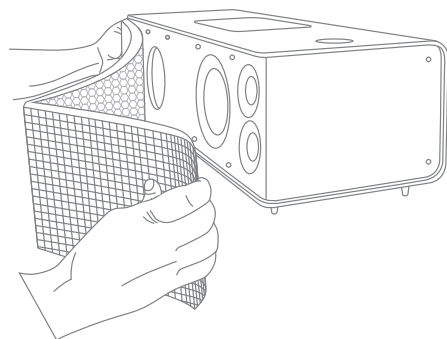
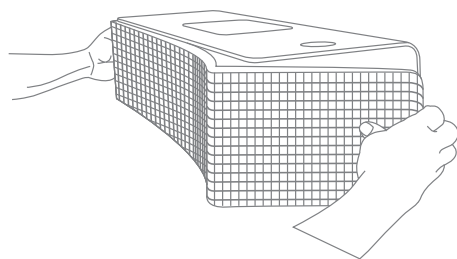
<http://jbl.harman-japan.co.jp/>

**その他****▶ 設定ページへアクセスする**

お使いのパソコンまたはタブレットで IP アドレスを入力して設定ページを開き (15 ページ「④ マニュアル接続」の手順⑥参照)、Wi-Fi 設定の変更やファームウェアのアップデートを行うことができます。

**▶ スピーカーグリルを取りはずす**

本機のスピーカーグリルを取りはずすときは、下図のように片側を押さえながらスピーカーグリル奥のくぼみに指をかけて取りはずします。

**ご注意**

スピーカーグリルの破損の恐れがありますので、取りはずす際に無理な力を加えないでください。

## インジケータの点灯パターン

インジケータの LED 表示状態により、本機の動作を確認することができます。

LED	表示状態	本機の状態
電源 (⏻) ボタンの LED	白く点灯	電源 ON
	オレンジ色で点灯	スリープモード
	消灯	電源 OFF/ スタンバイモード
Bluetooth (📶) ボタンの LED	白く点灯	Bluetooth 接続中
	白く点滅	ペアリングモード
AirPlay (🍏) アイコンの LED	白く点灯	AirPlay 選択中
DLNA (📶) アイコンの LED	白く点灯	DLNA 選択中
AUX IN (🔌) アイコンの LED	白く点灯	アナログ機器選択中
PHONO (🎧) アイコンの LED (Authentic L16 のみ)	白く点灯	レコードプレーヤー選択中
OPTIONAL (📺) アイコンの LED	白く点灯	デジタル機器選択中
音量ダイヤルの LED	白く点灯	現在の音量レベル
全ての LED	5 回点滅	本機のリセット完了時

## トラブルシューティング

原因	解決法
本機の電源 (⏻) ボタンを押しても電源が入らない。	電源ケーブルが正しく接続されているかご確認ください。
電源は入るが、音が出ない。	ペアリングされているかご確認ください。
	音量をご確認ください。
	デバイス側の再生が一時停止になっていないかご確認ください。
音が歪む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音量が上がりすぎている場合は音量を下げてください。</li> <li>アナログソースの音声が歪む場合は、デバイスが正しく接続されているかをご確認ください。</li> <li>レコードプレーヤーの音声が歪む場合、本機底面の入力レベル切り換えスイッチが正しい設定になっているかご確認ください (Authentics L16 のみ)。</li> </ul>
ペアリングできない。	<p>お手持ちの機器が本機と対応しているかどうかご確認ください。別の機器と接続していないかどうかご確認ください。本機は一度ペアリングを行った機器の情報を記憶しています。音楽を再生したい機器を再接続する場合は、近くのペアリングされている Bluetooth 機器をすべてオフにし、本機の電源を入れ直してください。</p>

### ▶ お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を薄めた液を少し含ませた布でふき、その後乾いた布でふき取ってください。

## 主な仕様

### <Authentics L16>

形式	3 ウェイアクティブスピーカーシステム
スピーカー構成	25mm ツイーター× 1、50mm ミッドレンジ× 1、130mm ウーファー× 1
システム周波数特性	35 Hz - 35 kHz
最大音圧レベル	108 dB @ 1m
アンプ出力	50W × 6
S/N 比	92 dB (アナログ入力)、78 dB (フォノ入力 (MM 入力時))、95 dB (デジタル入力)
Bluetooth	Bluetooth3.0 (NFC 対応)
Bluetooth 伝送距離	Class 2 (通信距離約 10m、障害なきこと)
Bluetooth 対応プロファイル	A2DP、AVRCP
無線 LAN	IEEE802.11b/g
無線 LAN 対応プロファイル	802.11b:DSSS (DBPSK、DQPSK、CCK) 802.11g:OFDM (BPSK、QPSK、16QAM、64QAM)
音声入力	Bluetooth × 1、光デジタル入力 (角型) × 1、アナログ音声入力 (3.5mm ステレオミニ) × 1、RCA (ライン/フォノ) × 1
最大消費電力	300W
サイズ	高さ 205 mm × 幅 690 mm × 奥行 260 mm
重量	12.7 kg

### <Authentics L8>

形式	2 ウェイアクティブスピーカーシステム
スピーカー構成	25mm ツイーター× 1、100mm ウーファー× 1
システム周波数特性	45 Hz - 35 kHz
最大音圧レベル	104 dB @ 1m
アンプ出力	30W × 4
S/N 比	92 dB (アナログ入力)、95 dB (デジタル入力)
Bluetooth	Bluetooth3.0 (NFC 対応)
Bluetooth 伝送距離	Class 2 (通信距離約 10m、障害なきこと)
Bluetooth 対応プロファイル	A2DP、AVRCP
無線 LAN	IEEE802.11b/g
無線 LAN 対応プロファイル	802.11b:DSSS (DBPSK、DQPSK、CCK) 802.11g:OFDM (BPSK、QPSK、16QAM、64QAM)
音声入力	Bluetooth × 1、光デジタル入力 (角型) × 1、アナログ音声入力 (3.5mm ステレオミニ) × 1
最大消費電力	120W
サイズ	高さ 160 mm × 幅 565 mm × 奥行 230 mm
重量	7.2 kg

## ▶ HARMAN Owners' Club

この度は JBL 製品をご購入いただき誠にありがとうございます。HARMAN Owners' Club (ハーマンオーナーズクラブ) は、ハーマンインターナショナル取り扱い製品ご愛用者のための会員プログラムです。

会員様に向けたさまざまな特典やサービスをお届けします。

<https://www.harman-ownersclub.jp>

このアドレスからアクセスしてください。

携帯電話からはご登録できませんのでご注意ください。

## ▶ アフターサポート

日本国内のアフターサポートに関する情報は、ハーマンインターナショナル株式会社ホームページに掲載しています。

<http://jbl.harman-japan.co.jp/support/>

- AirPlay、AirPlay ロゴ、iPhone、iPod および iTunes は、米国ならびに他の国々で登録された、Apple Inc. の登録商標です。iPad は、Apple Inc. の商標です。
- 「Made for iPod」、「Made for iPhone」および「Made for iPad」とはそれぞれ、iPod、iPhone および iPad 専用に接続するよう設計され、アップル社が定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示しています。
- Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
- “N-Mark” ロゴは、NFC Forum, Inc. の商標あるいは登録商標です。
- Harman International Industries, Incorporated は、これら商標を使用する許可を受けています。
- JBL は米国およびその他の国々における Harman International Industries, Incorporated の登録商標です。
- DLNA<sup>®</sup>、DLNA ロゴおよび DLNA CERTIFIED<sup>™</sup> は、Digital Living Network Alliance の商標、サービスマーク、または認証マークです。
- Microsoft、Windows および Windows Media は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 「Wi-Fi」は Wi-Fi Alliance の登録商標です。
- Android は、Google Inc. の商標および登録商標です。

